第 2016-07 号

恵みと真理のニュース

2016 年 2 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 主が与えてくださった許しの愛、治療の愛、万事が益となるように共に働く愛、大きくて驚くな愛に感謝します

私はカンハトで生まれソウルに引越しして幼い頃6.25韓国戦争が起きてテクで避難をしてまたソウルに戻って来て住みました。戦後は世の中が混乱で苦しくて貧しく生活しましたが、家の近くにある家で賛美の声が聞こえて来ました。明るくて良い曲調の歌が聞こえてくるとなぜ、よい事があるから歌うのか奇問でした。ある日からそこで住んでいる執事と子供達があめを渡しながら伝道しました。教会に行きたい心はありましたが、母が教会の近くには是対行けないようにして“教会に行くと鼻が高い西洋人が遠い国へ連れて行くよ。”と恐がらせて諦めました。

時間が経って結婚してから二番目の兄の伝道で教会に行き始めました。しかし、強い信仰がなくてインチョンに引越ししてから二人の息子と熱心に信仰生活をしようとしましたが姑と旦那の反対に勝てなくてすぐやめました。“主よ。住みませんが少し休んで後でよく信じます。”と言って世に戻りました。その後、二番目の子が会社で働く中で機械で 足が巻き込まれて足の指がつぶれた大きい事故に遭いました。医師は足の一部分を切断しなければならないと言われました。天地が崩れるような大きい衝撃を受けました。気をつけたら神様が私に悔い改め戻るようにしてくださいました。“今まで神様を畏れなくて世をさ迷って生きて来たこと赦してください。哀れんでください。これから神様の所を離さないです。私の家族を救ってください。息子を治療してください。涙を流して祈りました。

息子の事故の話を聞いて教会に通うおいが病院に来て“叔母さん、教会に通い早く信仰を回復してください。”と言い伝道しました。その時から私は恵と真理教会の聖徒になりました。

なぜ、教会に行くと誘ったのかその理由を知りました。教会を通って私の人生に大きい変化されました。以前感じられなかった神様の恵みと愛を深く悟って神様の恵みと愛を深く悟りました。当会長の牧師が伝えてくださった神様の御言葉で慰められ神様の平安を体験しました。救いの確信を得て私達の人生がどこから来てどこに行くのか、どうやって生きるのが良いのか悟りました。御言葉の恵で信仰が深くなり成長しました。神様は私を御言葉と聖霊で満たしてくださり主日礼拝と月、水、金曜礼拝、区域礼拝まで全ての礼拝に休まずに参席して御言葉の恵を受け祈る熱心を与えてくださいました。息子の回復のため切に祈った結果、神様が導いてくださり半年ぶりに退院して、病院治療を受けて事故の当時医師が恐れたのと違って指三つだけ切断して健康が回復しました。治療の恵を与えてくださった神様に感謝します。

その後、私はキンポ聖殿とインチョン聖殿で信仰生活をして2008年に勧士の職分を受けて、翌年2009年2月にここキョンナンのキンへで移動して生活するようになりました。二番目の息子がここで事業をして忙しいから孫達を見守ってくださいと頼んだからです。

インチョンからキンへまで千里まで下りて来てまず、教会のジャンユ聖殿から探しました。ここでも恵と心理教会があって感激しました。すぐ、教区長の牧師と区域長が家に訪問して祈ってくださって祝福してくださいました。家から教会まで20kmくらい遠い距離でしたが、もっと遠いプサンとコゼドさらにサチョンでもジャンユ聖殿まで来て礼拝を捧げる聖徒を見ると感激になりひたすら熱心に礼拝中心の生活をしました。始めは息子から頼まれて来て見ると事業場が経済的に大変な状況でした。事業場を 洛東江のまわりの土地で運営をしたので随時で罰金を払って家賃も払ってました。私は神様に祈りはじめました。牧師と区域長と聖徒にも祈りを頼みました。そして、聖書に出てくるヤベツの祈りを見本として数年間祈りました。「どうかわたしを祝福して、わたしの領土を広げ、御手がわたしと共にあって災いからわたしを守り、苦しみを遠ざけてください」と祈ると、神はこの求めを聞き入れられた。”（歴代誌上　４：１０）御言葉の通り信実な神様は私と息子に福を与えて下さり事業場と家を買えるようにしてくださいました。ハレルヤ！

以前を考えると人生の道を歩む間与えてくださった恵は言葉では表現できないほど大きかったです。特に私が行く所に恵と真理教会があって相変わらず御言葉中心、礼拝中心の生活が出来るように大きい恵を与えてくださいました。そして、もっと教会を愛し牧師を愛します。一千教会を設立し、百万聖徒でリバイバルをする目標が成し遂げるように熱心に献身し、すべて栄光を捧げます。

［信仰コラム］ 痴 呆 症 予 防

”油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。”（箴言４：２３）

聖書には私達の魂が恵まれる問題だけではなく物事が恵まれ健やかになる問題まで扱っています。従って、疾病の予防と癒しについて現代医学が言う知識と共に聖書が教訓するお言葉に耳を傾けるべきです。寿命が延びたことによって老人性疾患の有病率が高くなっています。その中に痴呆症があります。しかし、驚くべきなことは老人性疾患に扱っていた痴呆症が３０ー４０代を奇襲しています。主な原因はお酒によるアルコール性の痴呆症といいます。それで平時から痴呆症予防法を通じて若い時から弛まずに管理することが必要です。

まず、痴呆症の症状がどうであるかを調べてみましょう。

認知能力が低下します。記憶力、時空間を把握する能力、分別力、計算の能力、言語技能が顕著に低くなります。また、行動に変化が起きます。無関心になり、感情の起伏が激しくなり、妄想をするようになり、幻覚症状と甚だしいうつ病と睡眠障害ができます。発病すると完治が難しく脳細胞の破壊等、脳の損傷による記憶障害で日常生活は勿論、社会活動が不可能な程度の精神的障害、性格障害、人格障害、身体的異常行動等が随伴するので早期に発見して積極的な治療を受けるのが重要です。

次に、痴呆症予防のための守則を調べてみましょう。

第一、禁煙、禁酒すべきです。喫煙をすると認知技能を低下させます。聖書に”あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。”（コリントの信徒への手紙ー６：１９）と記録されています。喫煙は神様の宿の中に有毒ガスを入れることに違いありません。飲酒を良くすると脳にある記憶回路に損傷を与え記憶力が落ちるアルコール性痴呆症を誘発しかねません。聖書に”酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、”（エフェソ書５：１８）と記録されています。第二、肥満を調節して低脂肪の食事をすべきです。脂肪のとり過ぎは血管に有害な作用をして血流に支障がもたらされます。聖書には獣の肉から血と油を除去して食べるように命令されています。”あなたがたは脂肪と血とをいっさい食べてはならない。これはあなたがたが、すべてその住む所で、代々守るべき永久の定めである』”（レビ記３：１７）と記録されています。第三、弛まず運動すべきです。弛まずに、規則的に運動すると体の活動量を増加させるので痴呆症の予防に効果的です。昔の時代には働くことだけで十分な運動量を得ることができたので聖書には働くことを勧奨しながら仕事を通じる運動効果を得るようにしました。第四、ストレスを解消すべきです。ストレスを多く受ける人はストレスをわずかに受ける人や受けない人に比べて 5 年の期間の間に痴呆症に発展する確率が約 2 倍高いという研究結果があります。瞑想や散歩、周辺の人々と対話をたくさんすることはストレスの解消に役立ちます。聖書に”いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト.イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。”（デザロニケの信徒への手紙ー５：１６～１８）と記録されています。これは最も卓越なストレス解消方法だけではなくストレスの予防方法にもなります。

第五、誠な生きがいと意味を持つ事をすべきです。生きることが空しくて働くことが無意味に感じられるとうつ病になってしますし、うつ病は痴呆症の原因になります。”だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。”（コリントの信徒への手紙ー１５：５８）と記録されています。人が行うことで最も価値のあり、やりがいがあるのは福音を述べ伝えて体である教会を仕えることです。第六、心を明るくすべきです。不信、絶望、憎み、恨み、妬み嫉みは体の全ての技能を撹乱にさせてホルモンの分泌が非正常であるようにします。“油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。”（箴言４：２３）と記録されています。心を明るくする考えは信仰、望み、愛の考えです。第七、頭脳と手を良く使うべきです。その最上の方法は声を出して聖書を読み、説教に傾聴することです。聖書を諳じて手をたたきながら賛美を歌うことです。なので、礼拝を捧げることを楽しむ聖徒が得る有益が誠に多いです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

何をどのように信じるか?

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

すべての人はどんな対象を信じる能力を持って生まれます。 人にこんな信仰がなければ生存が難しくなるでしょう。 このような信仰は神様が下さる貴重な資産です。 何をどのように信じるかと言うことはそこに相応する現実と状況を経験させます。 今日は私たちが何をどのように信じなければならないはずなのかをよく見ます。

第一、イエスキリストによる罪の赦しを徹底的に信じなければなりません。

人は神様から罪の赦しを得ることができなければ人生で生まれたのが幸せではなく災いになって呪いになります。 罪は神様の震怒と刑罰をもたらすからです。 だから人に一番の急先務が罪の赦しを受けるのです。 私たちがどのようにすると罪の赦しを受けることができるかを分かる道は聖書の外にはないです。 聖書には罪が何でどのようにして人々が罪人になったのかをおっしゃっています。 そして人が罪の赦しを受ける道も啓示されています。 人が神様から罪の赦しを受ける道はただ一つだけです。 私たちの罪を代わりに担当して十字架に釘付けられて死んで墓から復活したイエスキリストを自分の救世主に信じて迎接するのです。 罪がない神様のイエス様が童貞女の身に聖霊で孕胎されて世の中へいらっしゃったし私たち罪を担当して十字架に釘付けられて死んで復活しました。 これを示してあがないの恵みあるいはあがないの恵みと言います。 イエス様は最後の晩餐でグラスを持って弟子に与えながらおっしゃるのを “また杯を取り、感謝して彼らに与えて言われた、「みな、この杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。”（マタイによる福音書,26:27,28） としました。 だから私たち罪をあがないしたイエスキリストの外には救世主がいないという知識を持ってこれを信じる人は罪の赦しを受けます。 財物や権力や学位や先行や苦行やその何も必要ではないです。 神様の愛と恵みがいくら大きくて驚くべきかすべて形言する道ないです。

第二、イエスキリストによって義のあるようになることを完全に信じなければなりません。

イエスキリストを信じれば義があるようになります。 ローマ人への手紙, 3 章 23 節と 24 節には “すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。” と言いました。 律法を守て義のあるようになろうとする考えは投げ捨てなければなりません。 ガラテヤ人への手紙,5 章 4 節に “律法によって義とされようとするあなたがたは、キリストから離れてしまっている。恵みから落ちている。” としました。 イエス様を信じた後に律法を守って自分の義を加えなければならないという考えもしてはいけないです。 イエスキリストにあって私たちが得るようになる義は神様がくださる神様の義で悪魔が讒訴することができない義で神様の前に胆大に進むことができさせる義です。

罪人を刑罰なしに赦すことは神様の公義に違背されます。 神様が罪がないイエス様を送られて罪人の罪を担当するようになさって刑罰を下げて十字架に釘付ける事ができなくではたまらないようにした理由がここにあります。 イエスキリストが十字架に釘を打たれた事件に神様の愛と公義が均等に現われています。 義のあるようになる私たちの資格と功労は無駄です。 ただ私たちの罪を担当して釘付ける事ができなくではたまらなくて復活したイエスキリストを信じることだけで得るようになる神様の義です。 ローマ人への手紙, 3 章 22 節に記録されるのを “それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。” と言いました。

第三、イエスキリストを信じる人は神様の子になることを固く信じなければなりません。

どの身分と場合にいる人でもイエスキリストを信じるようになれば神様の子という身分と地位を持つようになります。 “しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。”（ヨハネによる福音書 1:12,13)と言いました。 私たちが神様の子という身分を得るようになったことは全面的に神様が施した愛によったのです。 世の中で人々が大変うらやましがる身分と地位を持っても、神様の子という身分に比べればとてもしがないのです。

第四、イエスキリストの名前で切に求めることを父神様が回答してくださるというお言葉を信じなければなりません。

神様を敬い畏れる者等の祈祷を神様がきいて適切な助けを施してくださった事件が聖書に数えきれなく記録されています。 イエスキリストが祈祷の回答を約束したお言葉も多いです。 “求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。”（マタイによる福音書 7:7,8)、また “ あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。” （ヨハネによる福音書 15:7)

私たちは病んだ体と心を治療してくださるのを信仰で祈らなければなりません。 神様は治療者です。

出エジプト記 15 章 26 節に “「あなたが、もしあなたの神、主の声に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つもあなたに下さないであろう。わたしは主であって、あなたをいやすものである」 マラキ書, 4 章 2 節に “しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる。” としました。 新約聖書を見れば病んだ者を治す イエス様の活動がたくさん記録されています。 イエス様は天に昇る直前に弟子に言いつけるのを福音を伝えながら病んだ者のために祈って按手する事をしなさいと言いました。 聖徒は治療のお言葉に対する知識と信仰を持たなければなりません。 そして治療する神様の恩寵を享受しなければなりません。

神様は私たちの祈る問題が何でも解決してくださる権能を持っています。 イエスキリストがおっしゃるのを “「人にはできない事も、神にはできる」”（ルカによる福音書, 18:27) しました。 “「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」”（マルコによる福音書, 9:23) しました。 しかし要求したそのまま回答にならない場合があります。 信仰で求めなかったからです。 貪欲で求めたからです。 適切な時ではないからです。 求める内容が求める者に益にならないからです。 そうでも祈るのが益です。 神様が信仰で切に求めた者に最善の回答をくださったということが分かるようになる日が必ず来るようになります。

五番目、イエスキリストを信じれば天国に行くようになることを信じなければなりません。

イエス様は公的な活動の開始から “悔い改めなさい天国が近い付いた。” と言うお言葉を宣布しました。 イエス様は天国に関して多くの方面で多くおっしゃいました。 ナザロと金持ちに関する言葉で地獄と天国に対して詳らかに描きました。 天国の比喩も多様におっしゃいました。 ヨハネの黙示録には天国の実際に対して詳らかに記録しておきました。 あらゆる宝石で構えられた都です。 花嫁が夫のために飾りつけたようであると言いました。

六番目、イエス様の再臨を慕って信じなければなりません。

聖書にはイエスキリストの再臨という神秘で驚くべきな約束があります。

ヘブル人への手紙 9 章 28 節に “キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに二度目に現れて、救を与えられるのである。” としました。 キリストが世の中にまたいらっしゃる時は不信者には恐ろしい審判の日になるはずであるが、聖徒には救いの完成という点で大変待たれる光栄の日になるでしょう。 誉めと賞と冕旒冠を受ける日になるでしょう。

七番目、復活に対する神様の約束を信じなければなりません。

イエスキリストが人間の罪を担当して死んだし墓に葬られました。 しかし三日ぶりに復活することで私たちの罪を成功的に完全にあがないしたことを明らかに現わしました。 イエスキリストが復活する以前に起きた復活の事件はただ一つもないです。 復活した身は蘇えった身と全然違います。 復活した身は腐らない身で強い身であり光栄な身です。 復活した身は神霊な身で天に属した形状を着ながら死ななくて完全な身です。 復活した身は “自分の存在” においては連続性を持つが “身の存在様式” においては連続性を持たないです。 イエスキリストは復活の初めの実でキリストに属した人々の復活はキリストが再臨なさる時に起きます。

聖徒の皆さんはイエスキリストによる罪の赦しことと義のあるようになることと神様の子になることを固く信じてください。 イエスキリストの名前で切に求めることを父神様が回答してくださるというお言葉を信じて祈ってください。 イエスキリストを信じれば天国に行くようになってイエス様の再臨を迎えるようになるながら復活するようになるということを信じる信仰で生きて行ってください。 聖徒の皆さんはこのような信仰によってそこに相応して適当な現実と状況を皆が経験するように願いします。